

授業概要

社会学Ⅰでは、社会学の基本的な考え方や概念を使って、人間と社会の関わり方、身の回りの日常を成り立たせている仕組みについて学ぶ。

あくまで個人的な問題だと思われることや、普段何気なく見過ごしている出来事を、社会との関わりの中かで考えていく。自分（たち）にとっての当たり前がいかにかに成立しているのか、幅広い視点から捉えていくことを目指す。

授業計画

第 1 回	ガイダンス：電車内での「音漏れ」は何故「迷惑行為」と言われるのか
第 2 回	社会学とは何だろうか
第 3 回	社会学の調査方法：いかに社会を「観察」していくのか
第 4 回	自分の人生や家族は社会とどう関わるのか
第 5 回	ジェンダーとセクシュアリティ：多様な性
第 6 回	権力と社会——規律訓練と環境管理
第 7 回	さまざまなメディアに媒介された社会1 メディアの歴史
第 8 回	さまざまなメディアに媒介された社会2 社会のなかのメディア
第 9 回	グローバル化する社会
第 10 回	エスニシティとは何か
第 11 回	カルチュラル・スタディーズ
第 12 回	技術と社会——自動車社会の歴史
第 13 回	格差と社会——日本と格差社会
第 14 回	「私」を作るのは社会？
第 15 回	まとめ
第 16 回	筆記試験

到達目標

現代のさまざまな事象や問題について、社会との関係から考え、意見を述べることができる。
現代社会の仕組みについて、基礎的な知識を修得する。

履修上の注意

講義時にコメントシートを配布し、授業の感想や自らの考え、疑問点等を書く時間を設ける。

予習・復習

生活のなかで、「当然だ」「こうあるべき」「仕方ない」と感じる出来事に遭遇したとき、なぜそうなのか、本当にそうなのか、考えておいてほしい。

講義内で示した参考文献や作品に目を通し、自主的な学習を行うこと。

講義内で課題を出す場合があるので締め切りまでに取り組んでくること。

評価方法

筆記試験（60%）

コメントシートおよび授業への参加姿勢（40%）

テキスト

テキストは指定しない。必要に応じてプリント配布やスライド投影を行う。

授業概要

私たちは、さまざまな人と人との関係（＝社会関係）のなかにいる。友人たちとの関係、家族との関係、近隣や職場の人々との関係。これらの社会関係のなかで、私たちはどう組み込まれて生きているのだろうか。また、それは時代とともにどう変わりつつあるのか。このような問いを掲げて、身の周りの社会現象の自明性やしぐみを改めて問うのが、社会学である。その入門編である社会学 I では、知人間の情報伝達や家族間の関係のような身近な話題を取り上げて、その基本的なしぐみや、現代における特徴を講義する。最近話題となった事件や、社会問題となっている事柄にも触れ、データや新聞記事などを活用しながら考えていくことで、情報の批判的な読み取り方についても学びながら、日本社会の現状についての理解を深めていく。

授業計画

第 1 回	社会学とは何を考える学問か
第 2 回	社会学の方法
第 3 回	個人間の情報伝達のしぐみ
第 4 回	異分化間コミュニケーションはなぜ難しいのか
第 5 回	パーソナルコミュニケーションの連鎖としてのうわさ
第 6 回	災害時のうわさとその社会的影響
第 7 回	新聞報道からみるマスコミの特性
第 8 回	コミュニケーションが作り出す「社会的現実」とは
第 9 回	現代家族の形態と機能
第 10 回	現代家族と子どもの教育
第 11 回	結婚しない若者たち
第 12 回	子どもを持たなくなった家族
第 13 回	家族問題としての DV・虐待と社会の対策
第 14 回	現代家族のゆくえ
第 15 回	全体のまとめ
第 16 回	筆記試験

到達目標

現代日本社会で起きている諸現象や、いま社会問題となっている事柄についての基本的な知識を持ち、それについて自分なりに整理して意見を述べられるだけの、考察力を身につけること。

履修上の注意

この授業はテキストを用いないので、毎回の授業をきちんと聞くことが不可欠である。積極的に出席し、学んだことをもとに社会現象について考えていこうとする、意欲的な態度での受講を期待する。

予習・復習

紹介された参考文献やインターネットなどを利用した自主的な学習のほかに、授業で扱ったテーマについての社会観察や考察の課題を出す。その結果は、授業内の小レポート等で報告してもらうことがある。

評価方法

主に学期末試験によって評価する（80%）。授業内に書く小レポート等も考慮する（20%）。

テキスト

とくに定めない。授業では主にプリント資料を使用する。